

「宇智野」 1300 年文化の源流を訪ねる旅（全 3 回シリーズ・1）

第 1 の旅・金剛山麓に残る修験道文化を訪ねる 講師 赤尾隆祥氏（地福寺住職）

平成 28 年 7 月 7 日（木）七夕コンサート & 地福寺蓮華祭

当日近内御霊神社の文月祭（ふづきさい）も見学できます。近内御霊神社では午前 9 時より煮豆のお供えが始まります。

この機会にご参詣ください。近内御霊神社・八幡宮は藤岡家より徒歩 3 分です



蓮華祭（左 上・下）地福寺虫除け札（右）



法起菩薩胎内仏（左）と法起菩薩像（右）



地福寺遠景（昭和 29 年刊『久留野地福寺』）



藤岡家に残る金剛山の祈禱札（江戸時代）を藤岡家住宅で展示します

入館料（大人 300 円・小人 200 円）（コンサートも）
午前 10 時半 歌とコカリナと朗読のコンサート（藤岡家にて）
出演・コカリナクラブはとぼっぽ 五條市朗読サークル
午後 1 時 地福寺（久留野）蓮華祭見学へ案内します（ミニバス）
お食事ご希望の方は、別途 1000 円（お茶付き）をご用意します
（12 時～食事）お食事ご希望の方は事前にご予約下さい



七夕飾り（原田キヨウ様製作）



お問い合わせ・お申込 〒637・0016 奈良県五條市近内町 526 ☎と FAX 0747(22) 4013

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理人 うちのの館（やかた）

「宇智野」 1300 年文化の源流を訪ねる旅（全 3 回シリーズ・2）

第 2 の旅・金剛山麓祈りの文化を訪ねる 講師 神田憲明氏（近内御霊神社宮司）

平成 28 年 7 月 20 日（水）金剛山麓の御霊神社など見学



近内御霊神社



御霊神社地続きの八幡宮から御霊神社へむかう参道と金剛山 神社前の道標には右金剛山 道標には右 金剛山地福寺 法起菩薩とある

参加費 1000 円（入館料を含みます。小人は参加費込みで 900 円となります）

午後 1 時 藤岡家住宅（集合）＞近内・御霊神社（絵馬堂）＞小和・御霊神社（もうこんの鳥居など）＞住川・竜（龍）智神社（十一面観音像特別見学）3 時終了予定 マイクロバスでご案内します
竜智神社では延宝年間（1673 年～1681 年）作の十一面観音像を特別に見学します。事前にご予約下さい。歩き易い服装でご参加下さい。長い距離ではないですが歩きます

同日（7 月 20 日）開催「夏祭りランチサロン」のご案内

五條の伝統的夏祭り料理（柿の葉すし・そうめん・かき氷など）を楽しみます（要予約）

○ 1800 円（入館料込み）○午前 11 開始。

○夏祭りランチサロンにご参加の方は別途 700 円で御霊神社見学に参加できます。ランチサロン申込時に見学参加有無をご連絡ください

午前 9 時～午後 4 時開館・月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館
大人（高校生以上）300 円・小人 200 円・info@uchinono-yakata.com



登録有形文化財「藤岡家住宅」

「宇智野」1300 年文化の源流を訪ねる旅 について

五條市に残る古名「宇智」は、「宇知」「有智」「内」などとも表記されます。初出は『万葉集』（巻一・3 と 4）で第 34 代舒明天皇（在位 629 年～641 年）が遊獵に「内野」を訪れています。「続日本紀」には 7 回〈文武 2 年（698）～宝亀 4 年（773）〉に記され、飛鳥～奈良時代の初期に天皇の宇智野への行幸が多くみられたことがわかります。その理由として①紀州への経路②吉野への経路③獵④瓦の生産管理⑤栄山寺 という 5 つの条件が考えられます。葛城・金剛山麓文化圏と、吉野川流域文化圏の合流する地点に、栄山寺を中心にした「宇智文化圏」が成立していたものと思われます。（葛城・金剛文化圏）と、（吉野川流域文化圏）のはざまに育った 1300 年の歴史をもつ「宇智野」文化の源流を訪ねて、「第 8 回七夕コンサート&地福寺『蓮華祭』見学」・「金剛山麓の神社巡り」・「H00K ウクレレコンサート&御霊神社の秋祭り見学」をシリーズで開催します。

第 1 の旅〈金剛山麓 修験道の文化を訪ねる〉お話・赤尾隆祥氏（地福寺）

平成 28 年 7 月 7 日開催「第 8 回七夕コンサート&久留野・地福寺蓮華祭見学」（入館料のみ）

「藤岡家住宅」で金剛山の祈祷札などの企画展示・関連資料（金剛山・蓮華祭について）の配布

午前 9 時～ 近内御霊神社にて文月祭（ふづきさい）煮豆のお供え。藤岡家の七夕飾りを午後に奉納。

午前 10 時半～「七夕コンサート・歌とコカリナと朗読」（コカリナクラブはとぼっぼ・五條市朗読サークル）

午後 1 時～「藤岡家住宅」から地福寺へ案内（藤岡家のミニバス）地福寺見学・蓮華祭見学（午後 3 時頃終了予定）

第 2 の旅〈金剛山麓祈りの文化を訪ねる〉お話・神田憲明氏（御霊神社）

平成 28 年 7 月 20 日開催 参加費 1000 円（入館料を含む）

同日開催「夏祭りランチサロン」参加者は 700 円で参加（夏祭りランチサロンの参加費に入館料が含まれるため）

近内・御霊神社＞小和・御霊神社・もうこんの鳥居見学＞住川・竜智神社・十一面観音像（延宝年間作）特別見学

「藤岡家住宅」で企画展示と関連資料の配布 午後 1 時～マイクロバスで見学に出発（3 時半終了予定）

第 3 の旅〈御霊信仰の文化を訪ねる〉お話・川村優理「栄山寺と井上皇后と御陵信仰」

平成 28 年 10 月 22 日開催「H00K ウクレレコンサート&御霊神社の秋祭り見学」

午前 10 時半～ウクレレコンサート（入館料のみ） 午後1時～御霊神社秋祭り見学(別途 700円)

蓮華祭は千年来伝統の聖火大護摩である。（昭和 2 8 年）

ほうき（法起）菩薩をたてておく

すきはこんごせ（金剛山）いやくるの（久留野）なら

酔うてひよろひよろいぬうしろよりしのび送りの無行灯

歌謡でもあるブンダイ節にまで次の如くよまるる程であった。

大法楽日で踵を接する程の雑踏であった。この頃、五条独特の

築した程であり、殊に蓮華祭の当日に至っては全く近在にない

ゆることなく、ために間口六間 奥行二三間という大客殿を新

泉・吉野・葛城・高市方面から当寺に参拝、日々陸続として絶

金剛山に参っていたほとんど全部が遠くは中国・四国近くは紀

寺に参詣する者少なかったが、法起菩薩尊像下参後は今まで

でにコゴセ参り（注・金剛山参りのこと）の人々の日々当地福

寺に参詣する者少なかったが、法起菩薩尊像下参後は今まで

大護摩を執行する。（近年は陰暦六月七日が農家の最も忙しいと

きであるため陽暦七月七日に改めた）前述の如く明治維新前す

でにコゴセ参り（注・金剛山参りのこと）の人々の日々当地福

寺に参詣する者少なかったが、法起菩薩尊像下参後は今まで

金剛山に参っていたほとんど全部が遠くは中国・四国近くは紀

泉・吉野・葛城・高市方面から当寺に参拝、日々陸続として絶

ゆることなく、ために間口六間 奥行二三間という大客殿を新

築した程であり、殊に蓮華祭の当日に至っては全く近在にない

大法楽日で踵を接する程の雑踏であった。この頃、五条独特の

歌謡でもあるブンダイ節にまで次の如くよまるる程であった。

酔うてひよろひよろいぬうしろよりしのび送りの無行灯

すきはこんごせ（金剛山）いやくるの（久留野）なら

ほうき（法起）菩薩をたてておく

蓮華祭は千年来伝統の聖火大護摩である。（昭和 2 8 年）



地福寺 左）元金剛山行者坊本尊 行者神変大菩薩像 中）役行者感得の天壺 右）天壺を感徳した天ヶ滝



文化 14 年（1816 年）藤岡長兵衛（2 代目 官藏）が金剛山に寄進した一字一石塔（吉野川の石に梵字を書いて作った）

左）「大和名所図会」（寛政 3 年・1791 年）より金剛山図。当時は（こんごうせん）と読んでいる



龍智神社 日光東照宮什器 右）十一面観音像

地福寺（久留野町） 高野山真言宗。山号は牛滝山。元金剛山行者坊。新四国札所の 85 番。本堂（法起堂）、地藏堂、庫裡。法起菩薩立像（240 ㍺）。 胎内仏（室町期）。役行者像。大徳威明王像。不動明王像。「行者坊」（扁額）葛城慈雲書。「蛇骨」（元金剛山蔵）。「金剛山壽竹」1 本。灯籠（一對）には「金剛山行者坊、貞享 4（1687）丁卯（ひのとう）極月吉日」と刻まれている。地藏堂には、旧本尊 地藏菩薩立像。弘法大師坐像。千手観音菩薩立像。地藏菩薩立像。十一面観世音菩薩立像。阿弥陀如来立像。明治初年には、金剛山行者坊から、仏像重宝などを移した。神仏分離を受けて葛城修験道の本山であった金剛山転法輪寺が廃寺とされるに当たり、明治 4 年（1871 年）8 月、同寺の本尊であった法起菩薩が当寺に移された。胎内仏の法起像は室町期の作であるとされ、また、金剛山行者坊の本尊であった役行者像、不動明王像、大威徳明王像が残されている。 役行者（役小角）が天ヶ滝において降雨を祈祷して感得したという寺宝の壺が伝わる。

近内御霊神社 創立・嘉禎 4（1238）年閏 2 月 霊安寺御霊神社より分祀。（鎌倉前期）本社殿の祭神・井上内親王。春日造一間社銅板葺。 脇社殿（若宮さん）の祭神・雷神。春日造一間社銅板葺。早良神社、他戸神社 春日造トタン葺小社殿。八幡神社天和 2（1682）年の棟札。本社殿 祭神は品陀和気命。流造一間社銅板葺。

小和 御霊神社 井上皇后をまつる。霊安寺の御霊神社を勧請したもので旧村社。女神坐像 2 体をまつり、一体（高さ 18.2 ㍺）は、江戸期制作。一木彫に着色。垂髪で若宮を懷に抱き、両膝に二人の童子を寄せている。もう一体は室町期に古式を模したもの。裏面に、保寿元年（天文元年・1532 年）9 月 3 日、仏師僧嚴意願主伴立行くにより息災延命増長安寿のため造立した旨を記す。厨子奥壁に「井上皇后 本地准娑観音」と記す。嘉禎 4 年閏 2 月に霊安寺御霊社より分祀したと伝えられる。

もうこんの鳥居（伝承地）「昔、旧南宇智村霊安寺に井上内親王をお祀りしてえあったのを村々に宮分けをして祀る際に、小和の人々は御霊様をかついで帰っていったのを、ご神体を取り戻そうという人々が追ってきた。なんとか無事に逃げ帰ったところへ、鳥居を建てた。「ここまで来たらもう来んだろう」というので「もうこんの鳥居」と名付けた」

竜（龍）智神社（住川町）祭神は不詳。本社殿前鳥居に「竜智大明神」の額がある。慶安の鐘銘に「竜池・御霊二神」とある。竜池は水の神。領主 庄田下総守が、日光東照宮造営の普請奉行となり、上棟式の道具を賜ったのを寄附しており「記 日光東照宮代権現宮 御上棟御道具 一、瓶子壺対 一、御幣壺本 已上（いじょう） 寛永 13 丙子歳（1636）三月日」とある。

竜（龍）智院 新四国 88 番札所の 88 番。竜智神社境内にある。もと同村毛理の阿弥陀寺の奥院であった。竜智神社に接して入母屋造瓦葺の本堂がある。本尊十一面観音立像（高さ 91 ㍺）は近世の作。両足のほぞに延宝年間住川の善右・善五・市兵衛・助四郎・。甚右・忠四・長二・源仁などの人名が墨書されている。不動立像（高さ 63 ㍺）の両脚のほぞに「奉造立竜池院本尊」と墨書してあるから、この像が元来当寺の本尊であったのであろう。また不動明王のほぞに「奉造立龍池院本尊」「卯年十二月吉祥日、中善五郎正住、村中衆」とあり、前記観音像と同時代の作と推定される。